

- 1 教育事業名 「わくわく自然体験 in とかしき」  
～Autumn wind to feel in Tokashiki Island 渡嘉敷で感じる秋の風～
- 2 ね ら い 法人ボランティアがこれまで培った知識・技能・経験を活かし、自然体験活動における実践的な取り組みをとおして、ボランティアとしての意識の向上を図る。また、参加者に対し、集団宿泊体験をとおして、家族や仲間との交流、ふれあいの大切さや自然体験活動の魅力を伝える。
- 3 期 日 平成29年11月11日（土）～12日（日）1泊2日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 100名 30組程度
- 6 参加人数 86名 27組
- 7 参加者内訳 幼児6名 小学生45名 大人35名  
(男性40名、女性46名) (県内86名)

8 実施プログラム

11月11日	9:00	10:00	11:30	12:00	13:00	16:00	16:30	17:00	17:30	19:30	20:30
	集合受付	出港	オープニング	昼食(持参弁当)	海洋研修(大型カヌー、オープンカヤック、スーパーフロート、水泳)	本館移動	入所オリエンテーション	タベのつどい	夕食入浴	フォトフレームづくり	就寝
11月12日	6:00	7:40	9:40	10:00	10:50	13:40	15:30				
	起床	朝食	キャンプ場移動	レクリエーション	野外炊飯(カレー作り)	エンディング	出港				

9 事業の様子

【1日目】



「オープニング」



「アイスブレイク」



「海洋研修オリエンテーション」



「親子でカヤック」





「スーパーフロート」



「入所オリエンテーション」



「貝殻フォトフレームづくり」



【2日目】



「レクリエーション」



「野外炊飯」



「美味しいカレーが完成」



「エンディング」

10 エピソード (参加者の声、アンケートより)

【参加者の声】

- ・ボランティアスタッフが細かく声かけしてくださって、1泊2日楽しく過ごせた。
- ・今回初めて参加したが、親子でとても良い経験ができた。
- ・ボランティアスタッフの一生懸命さが伝わってきた。
- ・いろんなプログラムに挑戦でき楽しめた。
- ・日頃なかなか体験できないプログラムの中で、子供達の真剣な表情を見ることができ貴重な経験となった。
- ・ボランティアスタッフの方々もはきはきしていて、子供達も楽しく参加できた。
- ・ボランティアスタッフが一生懸命で、なおかつ丁寧でありがたかった。

### 【ボランティアの声】

- ・親子の時間がもてる事業に携わり、呼びかけ方や説明の仕方などたくさんのことを学ぶことができた。
- ・人数の多い事業だったためうまくいかない部分もあったが、達成感を得ることができた。
- ・事業を通し、たくさん親子に楽しんでもらえたためうれしく思う。
- ・今回学んだことをこれからの活動に活かしていきたい。

## 11 担当者所見

### (1) 成果

本事業は、ボランティアがこれまで学んだことを実践に移すため「学び・想い・熱意をカタチに！」をコンセプトに実施した。参加者コンセプトである「家族でわくわく渡嘉敷での自然体験」を達成するために事前の話し合いから、具体的な指導方法などボランティア同士で知恵を出し合い、事業運営を務めた。慣れない運営ながらも参加者から「一生懸命さが伝わってきた」「楽しく過ごすことができた」といった感想があり、運営に携わったボランティアも「達成感を得ることができた」と感想で記述していることから、運営補助から一歩先に進んだ学びを得ることができたのではと感じる。また、事後反省会にてボランティア同士で反省点を自主的に共有していたことから、ボランティアとしての心構えを見直すきっかけになった様子がうかがえた。今回学んだことをこれからのボランティア活動の中だけでなく、それぞれの日常の学生生活の中でも大いに活かしてくれることを期待する。

### (2) 課題

- ・より多くの学生ボランティアの参画を得るため自主企画事業の日程をボランティアとしっかり話し合った上で決定する必要がある。
- ・本島で行われる運営会議に関して、進捗状況を担当だけでなく副担当や推進係の担当とも共有し、それぞれの視点から事前にフォローできる環境を整える。
- ・自主企画事業だけでなく日頃の事業の中でボランティアに課題を与え、運営に活かせる力を身につける場の設定が必要である。